

日七月二

常警日新聞

定価 一ヶ月五拾圓 三ヶ月十五圓 半年三十圓 一年六十圓
 廣告料五拾圓 十二字以下一圓 五拾字以下二圓 五拾字以上三圓
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 東京市平野区平野三丁目三番地
 電話 六二〇〇
 印刷所 東京市平野区平野三丁目三番地
 電話 六二〇〇

梁の武帝を語る

真繼 雲山

【二】

左れど、流石は武帝だ
 『これ悪魔の善を憎むなり』
 と認して、更に土木の工を起し、舊に倍する十二層の塔を建て始めたが、その完成を見ない内に、景侯の亂が起つて中止となつた。後久しからずして崩御したのであるが、その臨終は如何でありしぞといふに、左ほ

どまでに佛法を興隆した果報は案に相違して、景侯に攻め立てられ、一敗して幽囚の身となり、遂に牢死した。憂憤して獄中、疾をなす。口が苦しいから蜜をくせと望んだが與へられずせめて水でもとカア〜と烏のやうに二度言つたが叶はず、末期の水さへ飲み得ず、遊いたといふ。傳法の恩人、武帝の末路は斯ほ、どまでに光景慘憺を極めた。
 こゝまでの話を聞くとそれでは信心の甲斐も無き事と浩嘆して匙を投げる人があるかも知れぬ。しかし一築一落は宿因に報はれた世間道の話であつて、佛法では生死すら認めない、況んや消長の論すべきものがある筈がない。
 既に終り、宗教的に見て

苦患は問題でないにせよ人間生活として運命の轉變は重大である。左様な宿命的な既定の運命なるものがあつて、人間の禍福を左右するものか否かといふことについて、佛教は三世因果論を以て説明するが、釋尊以前の印度人も早くからそれについて考へてゐた。

第一は宿作外道といつて人事ごとく宿因の道なりとした。第二は無因外道なりといつて、左様な宿命

ノート

ヒマシ油
 は大人でも飲みにくいのですが、同量の単舍利別を混ぜて與へると子供でも平気で飲みます。

なといふ何者もありはしない。人間界のみのことは何もかも無理由偶然に成りゆ

二明日の献立二
 【朝】みそ汁―鶯菜―豆腐
 【晝】かきめし―カキ飯
 淺草のり
 【晚】焼肴―鮮魚朝鮮焼
 水晶馬鈴薯

この兩端の中間を採られたのが釋尊の三世因果説であつて、その佛説の要をいへば現世における自由意思

以外の出来事は、すべて前世宿因の業報であり、現世における自由意思の現はれである身口意三業の所作が來世における禍福の業因となるといふのである。それは宿命智ある者のみが三世に亘る因果關係を透見し得るとする。(丁)

笑話

醫者「は、あ、胃擴張ですか。
 しかし胃擴張なら少食すれば良いと云ふ説は古いです。大いに食ふべきです。」
 病人「ピラテキでも良いんですか?」
 醫者「構ひませんとも。お獨りではお淋しいでせうから私もお相伴しませう。」

その時、女中の聲
 『只今先生の奥さまからお電話で御馳走はお願ひだから出さないやうにとのお言葉でございます。先生は胃擴張であらうつしやるさうでございますから。』

木村 外科 醫院

平町五丁目橋際
 電話三〇九

貸切の●●●●
 御用命は!
 獅子吼(四四九)ノ勢デ
 マツサキ
 眞先ニ……………(マツサキ)
 三九ニタクシーへ!!!

又々ウチワ豫約期が來ました◇
 本年のウチワ。扇子は諸掛のかゝる外來品より、注文に追加に萬事便利にて、製品及價格に自信のある山久へ! 是非一度御用命を……
 山久團扇店
 前局町屋紺平
 番九〇四(呼)話電
 庫在富豐器子硝壘子菓
 一タスポ。一ダンレカ

十日
 体温の検査日です
 お宅の体温計は?
 正確な体温計を御利用下さい
 毎月十日の検査日を御利用下さい
 西村屋藥局
 電 三番

外科
 専門線 X
 上田外科病院
 平町南町
 電話一二九番

耳鼻咽喉科専門
 氣管食道科
 平南町(電話一七〇番)
 大和田醫院

三河産業博覽會 金牌受賞
 昭和産業博覽會
 かまぼこ 製造
 水結法
 平町一丁目
 お惣菜用 さつま揚
 吉原揚
 電話一四一番

江戸前料理
 錦水自慢の料理
 水タキ 大和漬 もつ焼
 鬼がら焼
 錦水
 電話四五四番

産業開發工事

本年度分大半竣工

目下八年度分上申中

平土木監督所管内に於ける産業開發縣管工事は目下藤原川及び上遠野村御齊所地内縣道工事等の大工事を除き殆んど竣工し最近では田入村大字南大平宇小室地内道路工事外八ヶ所の竣工を見る等七年度事業は大体終へたので同所では八年度分の開發事業を上申中である

大藏省の貸付金

平稅務署が幹旋

返濟確實な公共團體にのみ

申込みが餘り無い

平稅務署では昨年十二月より大藏省預金部の貸付金を管内に幹旋中であるが同貸付金は返濟確實な公共團體にのみ運用され一般向でない結果申込みは不成績である

卒業兒童に

魂の教育

平第一校で

平第一小學校にては卒業も間近に迫つたので之等卒業兒童に對し校長自ら教壇に立ち一週三時間宛左の事項に基き修身教授をなして居る

- 一、うそを言ふべからず
- 一、君の御恩忘るべからず
- 一、父母の御恩忘るべからず
- 一、衆人の御恩忘るべからず

神

佛並に長者は粗末にすべからず 一、幼者を侮るべからず 一、腹を立つるは道にあらず 一、禮儀を亂るべからず 一、力の及ぶ限り善き方に盡す事

澤渡肥料購入

石城郡澤渡村農會では來る十二月午前十時より小學校に於いて肥料購入に關する打合せ會を開き全村を一丸とした大量購入を計畫する筈

松浦技師

工事視察

縣土木課の松浦技師は郡下匡救事業視察の爲め明日來郡目下着工中の夏井川改修工事並に下小川方面沿邊

劍道大會

申込續々

既報來る十二日午前九時より平商業學校道場に於て開催される磐城劍道大會の申込みが續々

農家の困廢は

依然回復至難

米價や生糸が漸落して 反對に肥料が馬鹿高値

石城郡下の各農村では昨年未頃迄全般的な米價及び生糸の暴騰を迎へて喜色に包まれて居たが本年に這入ると米價生糸共に漸落を初め一方その反對に春の肥料需要期に際し肥料の暴騰となり昨年一月には硫酸一噸七

十六圓だったのが本年一月百三圓に飛びまた硫酸加里一噸は前年百廿四圓が二百四圓と云ふ騰貴に逢つて居るので肥料購入に悩む向き多く疲弊は依然として回復に遠い觀がある

社會事業

視察團に

石城から三氏

平町九品寺住職遠藤心光、町役場松本充弘の兩氏並に勿來町の赤津一氏等は今回縣社會事業視察團の一行中に加り東京愛知方面の社會事業視察に出發すると

土木協議

工費一萬數千

平町役場では本日午前十時より會議室に土木委員會を

大浦共米安値

石城

販賣利用組合の大浦農業倉庫では去る五日共同販賣で二百俵を入札せる結果四等建値一俵八圓四十五錢にて四倉町佐藤熊藏氏に全部落札されたが前回に比較して十五錢の安値を見た

學兒耐寒行軍

平第一小學校にては來る二十七日

日次運動として全校兒童の第二回耐寒行軍を行ふと

磐中勇躍して

出場選手決定

平商との對校劍道試合

既報磐城中へ校對平商業學校の武道試合は明日午後一

藤沼醫院

平町紺屋町 電話五〇七番

也 白井晃 武藤兼一 林武義

△劍道 和田弘尚 三浦辰雄 作山友三 大平吉白 飛 幸

りん病 永らく悩む人の福音
この名湯別府温泉で出來た無効返金責任藥

全國知名新聞 こんなヨイクスリを未だ知らな
雑誌 推奨 い方がありませうか

右は岩里家古來よりの家傳秘法藥にして男女血らし
慢性淋病、こしけ、濁病の病みは不思議に止り連服
するも絶對胃腸傷害なき各葉であります
尚ほ此の藥は責任速効藥で二日内服して効なき時は
殘藥引換に全部異議なく返金します
論より證據服藥した人は皆全快喜んで居ります。慢
性、悪性の人は七日以上服差して下さい。
美本淋病治療書無代進呈 此の新聞各記入申込者に
付前金申込者には送料無料、新品送藥す。
代金引換廿三錢手数料金納の事。

藥價 急性用(黒箱) 一週分 參圓
慢性用(赤箱) 一週分 五圓

特約 平町古鍛冶町一〇
手販賣 阿康藥舖
縣社、下(電話四四番)

旭硝子株式會社製品
赤菱印 板ガラス

製造 販賣
硝子 壺
硝子 食器
其他 各種

松崎硝子製作所
平町新川町(電話一四二番)
仙臺市榮町(電話五九七番)

◇支工場

内科 難波 陸
醫學博士
平町新川端(釜屋新宅向)
電話五〇二番

收容中の築港所長に

音信や差入れが絶無

平刑務所知名の士で埋る

目下平刑務所に於ける未決拘留者は小名濱築港事件の關係者六名を筆頭に川前收入役其他十餘名に達し、いづれも有力者株であるだけに差入れ物が多くこの所差入れ屋さんは轉手古舞ひだが茲に不思議とも云ふべきは小名濱築港事務所長高等官三等樗木篤夫氏に對して何等の音信差入れ物等が一つもない事である。

一家絶食

夫婦が共に病み

一兒飢えに泣く

平町搔樋小路山崎治郎(五八)が過勞から喘息を病み今は數年前より心臟病の爲め働く事が出来ず妻トシ(五二)が人夫働きを爲し貞雄(一五)マキ(八)の兩兒と共に一家四名雨露をしのいで居たが唯一の働手であつたトシも

平町愛國婦人會が

講演と映畫の夕を

杉本春喜氏來平を機として

昨報平町愛國婦人會では日本兩親再教育會主事杉本春喜氏來平を機として来る十日午後六時半より平署會議室に於いて同氏の講演並びに會員慰安の映畫會を催す事になつた

酒井保氏

博士に

以前平鐵道病院の囑託醫として六ヶ年勤務した事のある醫學士酒井保氏が今回ホ

ルモンに關する論文が千葉大教授會の推奨する處となり醫學博士の學位を授與された、同氏は平町南町酒井國三郎氏の女婿で現在

千葉鐵道 病院へ勤務して居るが略歴は九州帝大出身後東京帝大に於て長與博士の許に病理學を研究し更に九州醫大にて同校の學を極め、三井造船所病院、大阪赤十字病院に勤務し前記平鐵道を経て千葉醫大に

出稼ぎとは

名のみ薄情男

……實は愛の巢を營む
……捨てられた女房立腹

石城郡内郷村字綴居住加瀬時藏(三三)は一月初旬妻ヒサ(三九)に北海道の炭礦で働いて來ると貯金五十圓を持つて出發したが其後夫から一回の通信もないので不審に思つて心當りを尋ね廻つた處時藏は隣家の理髮師藤村マサと好間村字町田内に愛の巢を構へて居る事が解り平署に無情な夫の説諭方を願出た

飯野青年總會 石城郡飯野村青年團の春期總會



報豫氣天
今晚は北東の風曇り
明日は北西の風曇り

今晚の部
後六、〇〇 子供の時間
お話「ローマ字」(一)岡倉由三郎
後六、二五 英語講座 中
後七、三〇 漫談「インチキ試食會」徳川夢聲 伴
後八、五〇 連續講談「大岡政談天一坊」(第二席) 神田伯龍

後八、〇〇 歌曲 歌集
金鐘より「天地に外」等低音 萩原正可 同高音 萩原好子
後八、二〇 漫談「インチキ試食會」徳川夢聲 伴
後八、五〇 連續講談「大岡政談天一坊」(第二席) 神田伯龍

後九、三〇 滿洲よみ
後九、四〇 全國ニュース
氣象通報 番組豫告
明日の部
前九、一〇 料理献立「ピラキオニオン添へ」朝倉長吉
前九、三〇 家庭講座「喘息の一般的療法」醫學博士 窪川經廣
後九、五〇 吹奏樂 大阪市音樂隊
後十、〇〇 婦人講座「歌の正しさうたひ方」三醫學博士 岡田和一郎
後十、三五 受驗講座「國語」内海弘藏

後六、〇〇 子供の時間
お話「ローマ字」(二) 岡倉由三郎
後六、二五 英語講座「初等科」岡倉由三郎
後七、〇〇 講演「滿洲里籠城の想ひ出」前滿洲里領事 山崎誠一郎
後八、〇〇 琵琶講談「乃木將軍陣中物語」松平勳
後八、三〇 哥澤「戀するふ外」唄 哥澤、松、三味線 哥澤芝壽春
後八、五〇 連續講談「大岡政談天一坊」(第三席) 神田伯龍

金の顔を見て急に

東京見物に出掛けた少年 家で父親大心配

石城郡飯野村字南白土精米業吉野修治三男輝雄(一七)は去る六日三十餘圓の集金を握り實父宛に東京見物に行くととの端書を飛ばした儘行衛を晦したので實父より取押へ方を平署に願出た

正證書原本不實記載行使詐欺事件及び共犯者平町字七丁目十五番地志賀欽作(四四)に對する詐欺幫助横領事件の公判は来る十五日午前九時より平區裁判所に於て關口判事係り小林檢事立會の下に開廷すると

平裁判たより

過般平刑務所に收容され九日午前九時より同村小学校に催されるが午前は協議、宣誓、講演等を行ひ午後には餘興のマラソン、劍道大會を催すと

平職案紹介所報告
回人を求める方
△印刷徒弟 十六才 高卒

至急募集

一、活版印刷見習員 二名
但し年齢十五六歳の強壯な少年

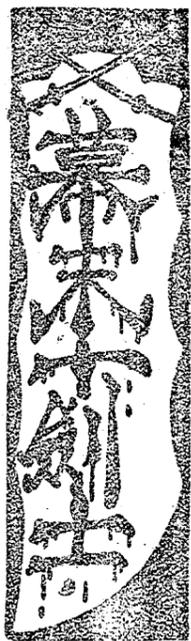
右至急募集す (詳細)

常磐毎日印刷株式會社

平町南町
平看護婦會
電話三〇七番
回職を求める方
△活版工 三十五才 高卒
給料面談(大浦村某)
△漬物賣子 四十才 高卒
給料面談(耶摩郡某)
△郵便局集配手 二十三才 高卒 給料面談(湯本町某)
△雜夫 三十三才 尋卒 給料面談(新潟縣某)

仕着小遣(平町某)
△商店員 二十才以下 尋卒 月五六圓(東京市某)
△雜夫 二十才 尋卒 月七圓(江名町某)
△女中 二十才迄 尋卒 給料面談(小名濱町某)

看護婦急派の求めに應じます



【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第二百六十一席 千葉周作

おせい藩を切らる

佐吉は馬藤の伴れて来た友藏をそれへ引据え、又おせいを引捉へて友藏と並べ

佐「千葉先生、二人を不具にして助けて遣ります」
それを見て周作先生が

周「待て、貴様に代つて俺が成敗して遣はす」

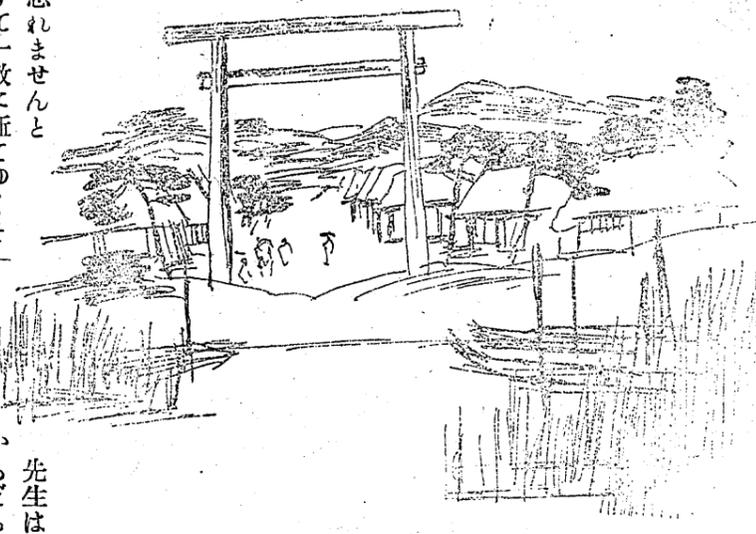
佐「それは有難いことございませう、ヤイ友藏、日本の劍術の先生が汝と妻を成敗して下さるとは運のいゝ畜生だ、有難く思へ」
友「どうぞお手やはらかに願ひますおせいさん、おめえも俺も不具になる、覺悟しな」

せい「どうぞ助けて下さいまし」
周「待て、只今人交りの出来ぬ姿に致しくれる」
スラリと引抜いた一刀

周「鼻を切るか但し耳を削いで遣はすか繁藏と申す者の靈魂を慰めて遣はす、エイ」
と氣合がかゝつたがにじのやうにキラリひらめく白刃、同時におせいの丸鬘と友藏の鬘がバタリと前に落ちた、周作先生之を見て

周「人交りのならぬ姿にな

つたナ、飾りを落した上は一人は尼、友藏は今道心只今よりこの地を去り諸國の靈場を参拜し繁藏の靈魂を慰めろ、疾く去れ」
バラリと友藏の繩を切つた、二人は毒蛇の口をのがれし思ひ、この御



思は忘れませんと云ひすて一散に駆てゆくぞれを見送る佐吉に馬藤

佐「先生鬘を切つたばかりでは御處刑が輕過ぎます」
周「イヤ、あれにてよろしからう、悪人なればとてその職にあらざる者が成

敗いたしては天下の法に觸れる、これにて助けて遣はせ」
佐「へ、彼奴等は運のいゝ奴でござんす」
周「時に佐吉、貴様は當時何れに居る」
佐「吾妻橋向ふの齋細川の仲間部屋に居ります」
周「其れに居る馬藤と申す者は何處に居る」
藤「へ、わつちば千住の間屋敷に居ります」
周「そちも繁藏の子分であつたか」
藤「これでも兄イ株でござんす」

時に

先生はこれからどちらへ

お出でになります」
周「今日は探梅に巢鴨から王子に参り日を暮しこれから大千住にて一夜遊興をいたす」
藤「そいつはござんたわつ

ちが御案内しませう、佐吉兄と一緒に出来るがよい先生が、入費を持つて下さる」
佐「イヤ俺は部屋に歸る、先生又お目にかゝります今晩はとんだ御手数をかけました」
周「それではお玉ヶ池の道場に尋ねて参れ」
佐「此頃にお尋ね申しますさあ馬藤一緒に参れ」
と小臺の渡し口を出て引返したが馬藤は友藏とおせいの出してゐた店はどうしたかと来て見れば女中と料理人ばかり、お内儀さんは親方と一緒に歸つて来て又出て行つたとの事、茲で馬藤が筆筒を見ると目ぼしい着物と金はない、いめえましい奴だと賣溜をさらつて出て来た、佐吉は吾妻橋向ふの細川の仲間部屋に戻つて来たが、二三日たつて千葉先生の許を訪ね平手造酒の死せし態を話しました、周作先生はこれを聞いて涙を流し

周「繁藏の子分で當時魚賣をいたし居る清八と云ふ者よりも平手の死せし事は聞いたが残念な事を聞いたは彼は傑出した技は備へて居れど身持放埒なる爲に非業なる死をいたしたが此皆天罰であらう」
と云つたが不具な子ほど愛が増すとか、せめて平手の墓参りでもして遣りたいものと思つてゐた、スルトその年の秋の事ですが少しく暖を得ましたから香取と鹿島大神宮に参詣いたさう

と僕の喜助と云ふ者を伴れて下總に参りまづ香取神社に参詣してあれから佐原に出でそれから津の宮に來た前は利根川、これを越すと常陸の潮來
周「喜助、佳い景色だな」
喜「佳い眺めでございませうな、どうです繪にかいたやうでございませう」
周「潮來に渡つて名所を探り、又宮本の許を訪ねるであらう」
喜「宮本さまと申しますと劍術の、先生でございませうか」
周「イヤ、それは號を茶村と申して詩人である」
喜「なんでございませう、し、じんとは」
周「詩を作る」
喜「へ、月落ち鳥啼きして、唐の都々逸でございませうねんなものを作へて其れで世の中を送るとは面白い事でございますナ」

一册の代金で御希望通りな五册の雑誌が自由に讀める川崎巡回文庫 電六三〇番 (申込次第規則書進呈)

市原醫院
平町 田町
電話 一一四番

吸入用酸素 純度 99%
体温器
モノサシ
マ ス
ハカリ
寒暖計
關内藥局
電話 四〇番

金銀高價買入
平町二丁目(三幸堂跡)
根本時計店
電話 六〇七番

吉田眼科病院
平新川町十九
電話 一六四番
院長 木村寅次郎
産婦人科 木村寅次郎
内臓外科 醫學士 内木宗八
整形外科
器泌尿科